

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>



だれも一人ぼっちになんかしないよ！

校長 丹羽正昇

5月28日(日)、29日(月)の二日間で、日光修学旅行に出かけました。この時期での修学旅行は実に4年ぶりのことであり、コロナ禍が一定の終息を得たことの証なのかもしれません。6年生全員出席による修学旅行。一日目は、天候にも恵まれ、日曜日の朝早い出発ということもあってか、道中は比較的空いていました。ほぼしおりの予定表どおり、日光江戸村に到着した一行は、昼食をとり、その後村内をグループで散策しました。無料のアトラクションを楽しむグループ、さっそくお土産を物色するグループ、ゆっくりとあたりを歩き回るグループと、各自が話し合ったであろう時間の過ごし方を楽しんでいました。夕方までには宿に入り、修学旅行の醍醐味の一つである仲間との宿泊。普段の学校生活では、ほとんど見られないお互いの姿や様子は、彼らにとって新鮮なものであったに違いありません。益子焼絵付け体験、夕食、入浴、家族へのお土産購入など、濃密な時間はあっという間に過ぎていきました。ただ一つ気がかりだったのは、明日の天気。予報では、雨マークがぎっしり並んでいました。それでも、明日は明日の風が吹くといわんばかりに、子どもたちは一向に気にすることもなく、就寝時刻には一様に眠りにつきました。(そういうことにしておきます。)

二日目は、予報どおりの雨。時折小雨にはなりましたが、疑いようのない雨天。朝の集いは中止し、朝食後バスに乗車し、いろは坂を上って華厳の滝へ。華厳の滝は、霧がかかることもなく、水量も豊富で、迫力ある景色を見せていました。華厳の滝見学のあとは、いろは坂を下り、輪王寺、日光東照宮へ。(雨は降っていましたが)輪王寺三仏堂前の階段で恒例の学年での記念写真、日光東照宮の石碑(字は、渋沢栄一)前でのクラス写真のあと、いよいよ東照宮内へ。他の修学旅行生や外国人観光客、日本人ツアーの一行にまじっての鳴龍の体験、グループごとの散策と、雨の中ではありますが、きらびやかな世界遺産を堪能していました。

これで終わってしまったのは、思い出深い修学旅行のダイジェスト報告です。本題はここから。今回は、修学旅行中の6年生の姿を、ぜひ皆様にお伝えしたいのです。子どもたちがいかに立派だったか。ひょっとしたら、大人も学ばなければならないその姿勢に、私は痛く感銘を受けました。それは、人を大切にするという姿です。言葉にしてみようと、当たり前前のごとして見えたり聞こえたりするこの姿。改めて人を大切にすることは、どういうことかを考えてみると、案外難しいことに気が付きます。

しかし、子どもたちは、見事に具現化していました。どこまでも人に寄り添い、決して「だれも一人ぼっちにしない」という姿として、人を大切にすることを表していたのです。たとえば、集合時間ぎりぎりまで、誰かの興味・関心のあることに付き合う。家族のお土産に悩みに悩んでいる人に、急かすのではなく、品物の前でただひたすら一緒に待ち、見守っている。グループ内にトイレに行きたい人はいないか、定期的に声をかける。誰かがグループ活動からはぐれそうになったときには、ちゃんとやってよと叱るのではなく、あなたはどうしたいのか、意見や理由を尋ねる。修学旅行中のワンシーンとして、何気なく過ぎていきそうな姿こそ、貴重だと思いました。子どもたちの姿には、なんだか、考えさせられることが多くある。そう思いませんか。人を大切にすること。それは人に寄り添うことであり、人を気に掛けることである。そんな、認知顔の大人が使う言葉ではなく、6年生はもっとシンプルに私に示しました。「だれも一人ぼっちにしない」ことなのだ。

6年生の優しさに心打たれた二日間でした。6年生の皆さん。本当にありがとう。

